



「顧客の声から学ぶことが多く、求められているニーズを形にしていきたい」と話すのは、陶磁器販売卸業の「明和窯金陶苑」(多治見市明和町)の若尾侑史社長(43)。新規事業で、自社のレーザー加工やUVプリント加工、刺繍加工の機器を活用し、ペットなどのお気に入り写真をアクリルスタンドやキーホルダーに仕立てる新商品

近況 ニーズを形に独自商品

「うちのかわいい」シリーズの販売を始めている。

電子商取引(EC)サイトに力を入れており、今回の新商品も自社のホームページに専用サイトを開設し、小ロットでも注文を受け付ける。世界で一つだけのオリジナルグッズが作れ、個人からのオーダーも入っている。本業は卸売業ということもあり、消費者の声を直接聞ける機会は少なかったが、同シリーズへの注文などのやりとりを通して商品に関する意見がダイレクトに届くようになった。「本当に消費者が欲しいと思うものは何かを考え、丁寧なものづくりをしていきたい」と話す。